

前回検討会
町田市木曽山崎団地地区 まちづくり構想 【案】 町田市 2026 年 3 月

修正後
町田市木曽山崎団地地区 まちづくり構想 【案】 町田市 2026 年 3 月

前回検討会

【まちづくりのイメージ】

【まちづくりの目標】

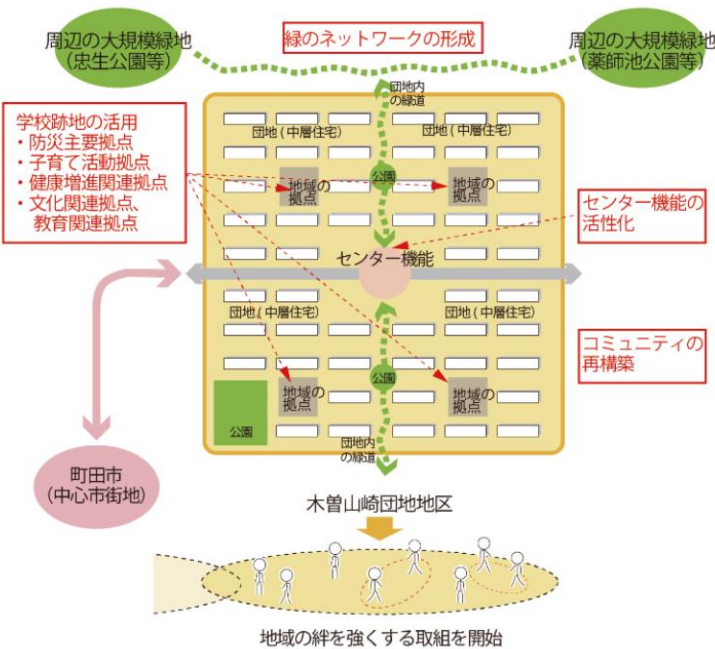
『新しい魅力と人の和を生む団地再生まちづくり』

【まちづくりの方向性】

- ①安心して暮らせるまちづくり
④周辺から訪れたい魅力のあるまちづくり
- ②楽しく交流できるまちづくり
⑤環境を考えたまちづくり
- ③利便性の高いまちづくり

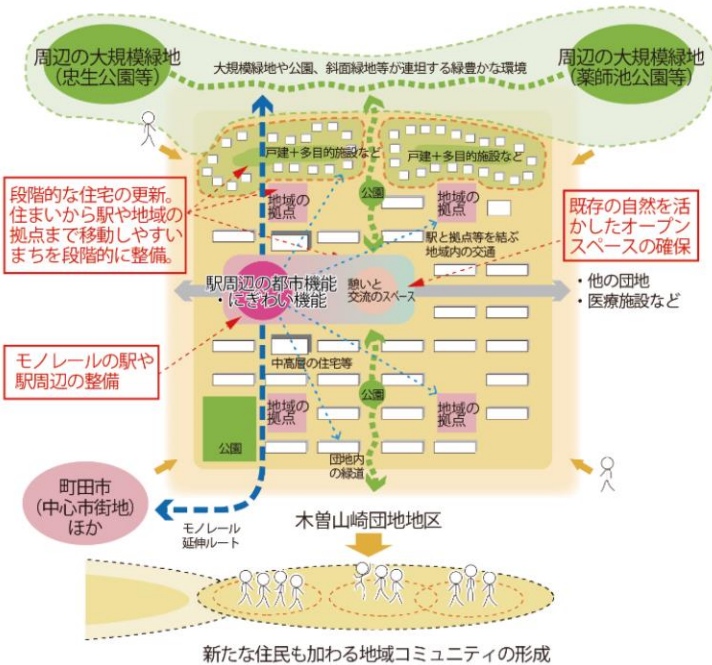
【まちづくりの進め方】

第一ステップ
学校跡地の活用を中心としたまちづくり



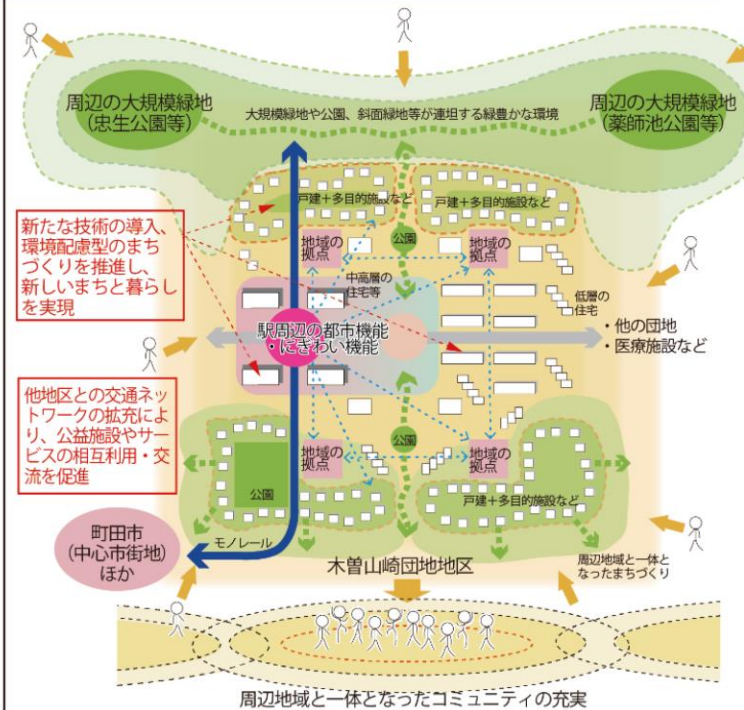
まちの将来像の実現に向け、まちづくりを行う最初の段階です。学校跡地の活用をはじめ、団地内の既存の財産を有効に活用し、住民の生活における身近な問題を解決することを中心に、まちづくりの目標・方向性に沿ったまちづくりを行っています。
学校跡地の整備も進み、(仮称)町田木曽パラアリーナの建設をもって完了となります。

第二ステップ
モノレール延伸を契機としたまちづくり



多摩都市モノレールの新駅の開業に向けて、駅周辺への新たなにぎわい機能の導入や既存のセンター地区との連携を強化するまちづくりを行う段階です。また、団地の住棟だけではなく、様々な目的に合せた新たな住宅の整備、地域の拠点機能の充実などにより、新たな住民や来訪者の増加を促します。緑豊かなオープンスペースと共に「住む」だけでなく多機能なまちとしての魅力を生み出し、これにより交流の輪が大きく広がり、活気あるまちに変えていきます。

第三ステップ
新たなまちの形成



モノレール駅を中心としたまちの魅力が浸透し、町田駅に次ぐ「地域拠点」として広域から利用されるまちを形成していく段階です。新たな技術の導入や環境配慮型のまちづくりにより新たな生活が生まれます。周辺地域との和を広げた一体的なまちづくりや、地域間のネットワークの充実を図り、周辺に開かれた魅力のあるまちへと生まれ変わります。

※まちづくりは継続して行われるものであり、第一から第三ステップは段階的まちづくりのイメージを示したものです。

【まちづくりのイメージ】

【まちづくりの目標】

『新しい魅力と人の和を生む団地再生まちづくり』

第二ステップと第三ステップの図、文章を一部修正。
第二ステップでは、交通関連拠点やにぎわい地区、
いこい地区の整備を主な目標とします。
第三ステップでは、地区内モビリティや高齢年化が進
んだ住宅の更新などを進め、町のさらなる発展を目指
します。

【まちづくりの方向性】

- ①安心して暮らせるまちづくり
②楽しく交流できるまちづくり
③利便性の高いまちづくり
④周辺から訪れたい魅力のあるまちづくり
⑤環境を考えたまちづくり

【まちづくりの進め方】

2026 年
3 月時点

モノレールの計画スタート/
(ルート決定)

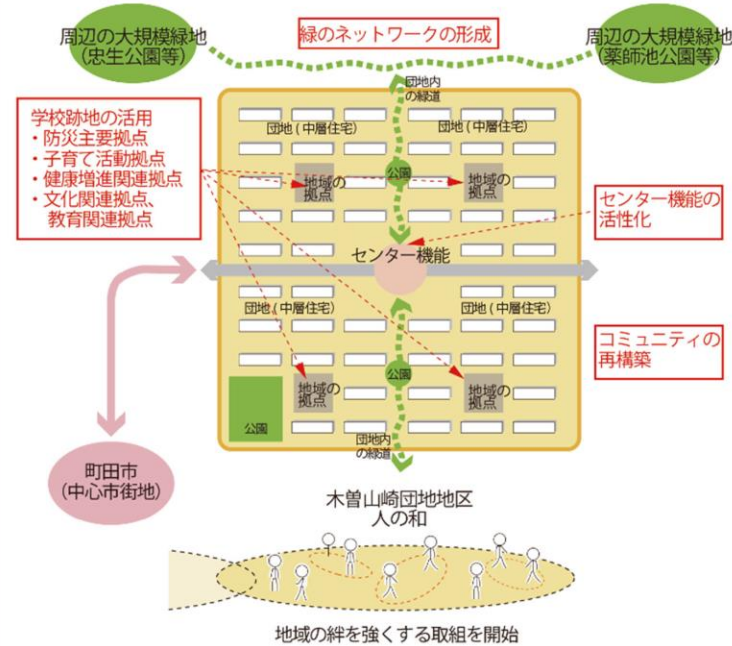
モノレール駅開業

地域の成熟

第一ステップ
学校跡地の活用を中心としたまちづくり

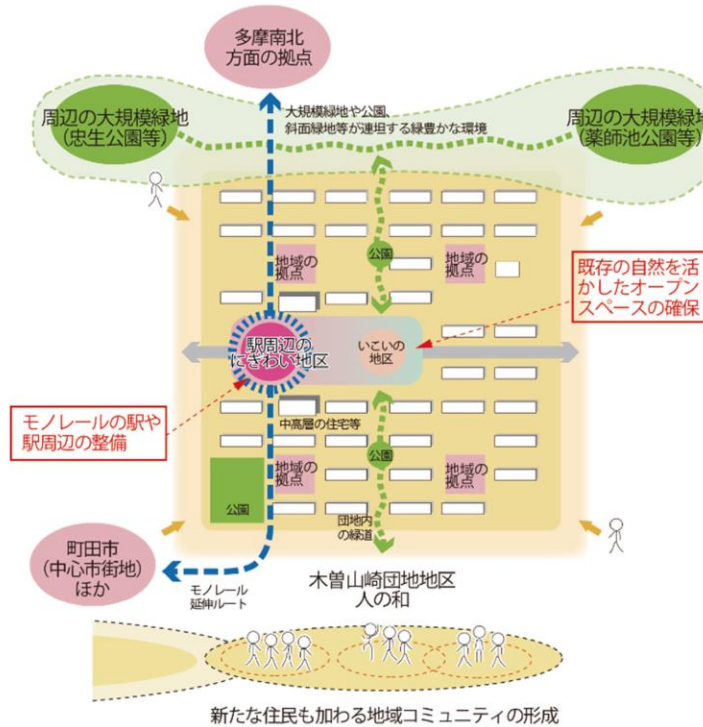
第二ステップ モノレール開業に向けたまちづくり

第三ステップ 新たなまちの形成



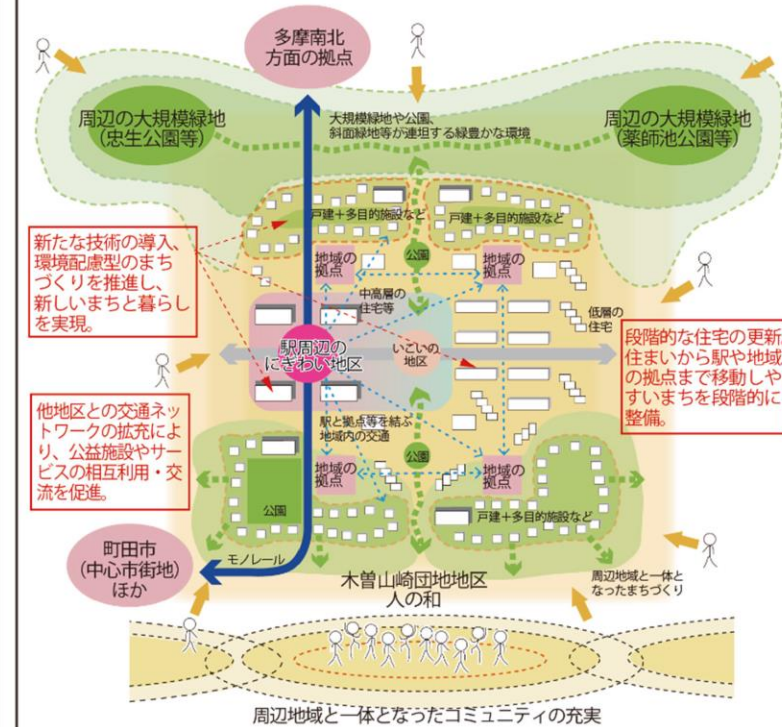
まちの将来像の実現に向け、まちづくりを行う最初の段階です。学校跡地の活用をはじめ、団地内の既存の財産を有効に活用し、住民の生活における身近な問題を解決することを中心に、まちづくりの目標・方向性に沿ったまちづくりを行っています。

学校跡地の整備も進み、(仮称)町田木曽山崎バラアリーナの建設をもって完了となります。



多摩都市モノレールの新駅開業を想定する2040年頃を見据えて、にぎわいやいこいなどの機能を充実させるまちづくりを行う段階です。

駅周辺の交通拠点整備とともに、新たに商業・飲食・娯楽・働く場などの導入や既存センター地区のさらなる充実、幅広い活動・体験や健康・憩いの空間の創出、多様なニーズに対応する中高層住宅等の整備などにより、新たな住民や多くの来訪者などによる活気あるまちへ変えていきます。



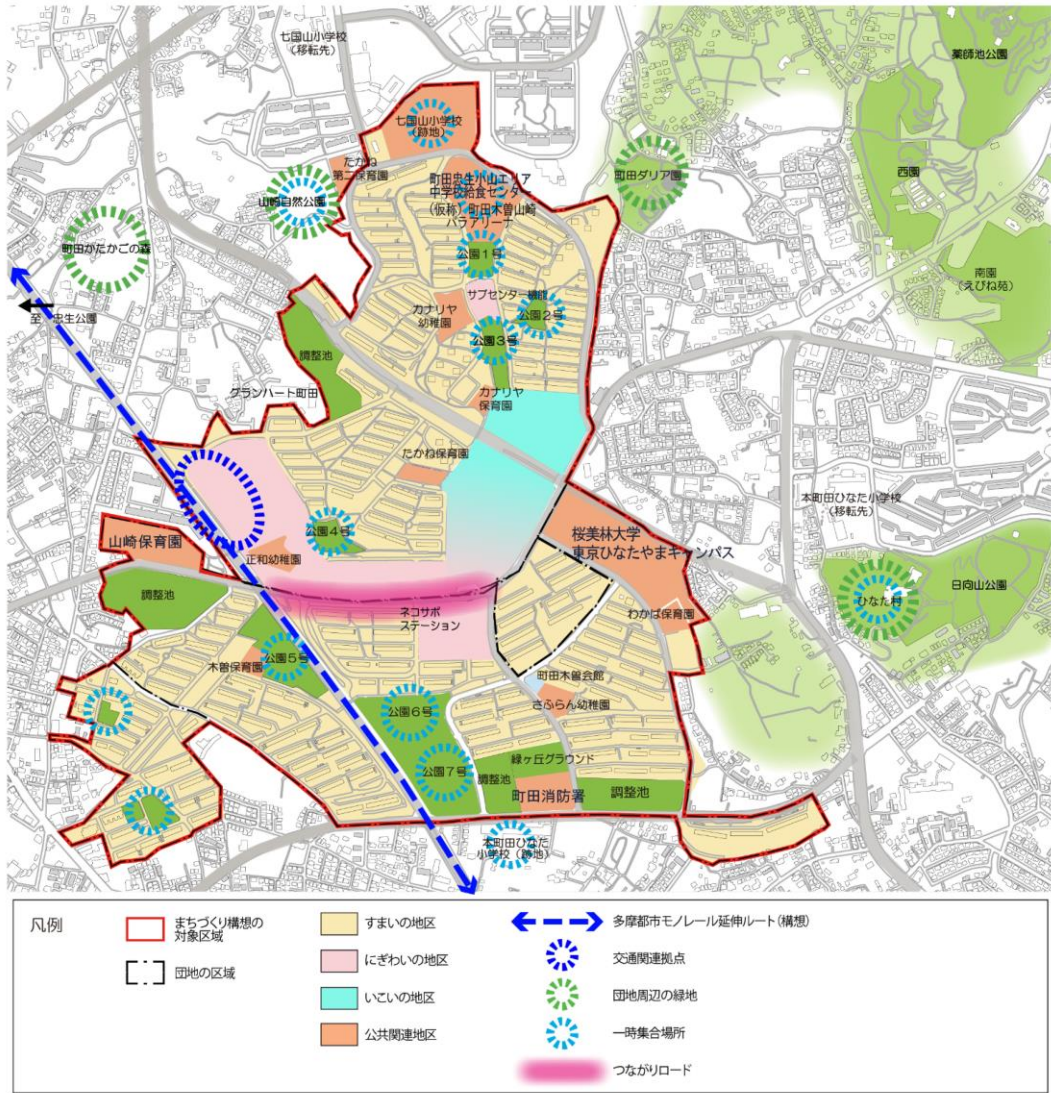
既存の建築物の更新に合わせて、モノレール駅を中心としたまちの魅力を向上し、新たなまちを形成していく段階です。

住棟の集約化や様々なライフスタイルに合わせた住宅の整備、新たな技術の導入や環境配慮型のまちづくりにより新しいまちと暮らしが生まれます。

※まちづくりは継続して行われるものであり、第一から第三ステップは段階的まちづくりのイメージを示したものです。

前回検討会

(4) エリアイメージ
団地地区における 2040 年頃のエリアイメージは以下の通りです。



修正後

交通関連拠点の範囲の変更、つながりロードの伸長、そのほか微修正。

団地地区における2040年頃のエリアイメージは以下の通りです。

